

令和3年度 国際交流の概要

現在、世界の7つの国・地域の13の大学と学術交流協定を結んでおり、教員間の学術交流と併せて学生の短期留学や海外研修セミナーなどの相互交流を行っています。国際交流センターでは、より体系的な組織運営を通じて、協定校との連携を中心とした本学のさらなる国際化を目指します。

【協定校】

教職員の交流、学生の交流、学園及び学術情報の交流、共同研究、講義シンポジウムなどを目的として、海外の大学と学術交流協定を締結しています。この協定に基づく、1年以内の交換留学は年間2～3名可能であり（相手先により異なる）、入学料や授業料などの学費免除や単位認定に関する配慮などが取り決められています。

アラスカ大学フェバンクス校（米国）、ニューヨーク州立大学SUNYアディロンダック校（米国）、リュブリャナ大学（スロベニア）、安徽三聯学院（中国）、厦門理工学院（中国）、モコン大学（韓国）、大田科学技術大学（韓国）、建国大学グローバルキャンパス（韓国）、国立宜蘭大学（台湾）、元培医事科技大学（台湾）、義守大学（台湾）、ブラパー大学（タイ）、ハノイ大学（ベトナム）

■長期の国際交流活動（6か月以上の留学先の学位や単位取得を目的とする活動）

※JASSO留学生調査の基準に基づく統計

<派遣>

昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により日本人学生の海外派遣はありませんでした。

<受入>

大学、大学院、短大で合計79名の留学生を受け入れています（令和3年5月時点）

大学2名（中国1名、韓国1名）

大学院11名（中国9名、韓国1名、ベトナム1名）

短大66名（ミャンマー37名、ベトナム11名、ネパール7名、スリランカ5名、インドネシア3名、タイ1名、

中国1名、台湾1名）

※一部の新入生は新型コロナウイルス感染症の影響により日本に入国できていません。

■短期の国際交流活動（6か月未満の留学先の学位や単位取得を目的としない活動）

※JASSO留学生調査の基準に基づく統計

<派遣> 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により日本人学生の海外派遣はありませんでした。

<受入> 昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により外国人留学生の短期受入はありませんでした。

■特色ある国際交流プログラム

- ① 社会福祉学科では、平成26年度より、厦門理工学院外国語学院日本語学科の「日本文化研修」（毎年継続事業、6～7月頃、20～30名）を受け入れ、合同授業、国際合同合宿、弓道クラブ活動体験などを実施しています。一方、本学からも「中国厦門理工学院海外研修セミナー」として、「大学（国際地域コース主催）・自治体（神崎市役所）・地元産業（そうめん組合）・神埼地区日中友好協会・一般市民」が連携協力して訪中し、「特別講演会」「アジア若者フォーラム」「佐賀・神埼物産フェア」など、大学と神埼地域および国際地域との連携事業を開催しています。特に平成30年度よりは、本学教員2名が日本文化言語センター客員教授として招聘され、「現代日本社会論」や「現代日本福祉論」の集中講義（2単位）を担当しました。尚、この集中講義方式は、本学の特色を直接広報活動できるという意味で「海外留学生の募集」に繋がっており、厦門側からこれまで数多くの正規留学生や交換留学生が本学に留学しています。
- ② 平成30年度より、「アジアン・コミュニティ・カフェ」を開催し（5回）、昨年度は「九州西部地域大学・短期大学連合産学官連携プラットフォーム事業」の一環として企画書が採択され補助金がつき、7回開催されました。これにより、長崎国際大学や佐賀県内3つの短期大学、さらに日本語学校や高校との連携協力関係が推進されています。令和2年度は佐賀商業高校との高大協働授業として、「ビジネスと多文化共生」というテーマで、留学生（中国2名、ベトナム3名、韓国1名）による「文化紹介」「母語会話」「Q&Aセッション」などの高校生との国際交流がありました。
- ③ 留学生と地域との交流活動として、神埼地区日中友好協会の年間事業への企画立案運営過程への参加、「日中文化交流の集い」「神崎市宿場まつり」への参加、「小城市本町シャンシャン祭り」への参加、「平成30年度 まなびいフェスタ」（佐賀県立生涯学習センター主催）、「2020さが国際フェスタin神埼」（佐賀県国際交流協会主催）への参加などを通して「地域社会の国際化」に寄与貢献しています。
- ④ ENGlunchは本学のオーストラリア人ネイティブ教員が主催する活動です。お昼休みの時間を使って、毎週水曜日は神埼キャンパスで、金曜日には佐賀キャンパスで、留学生も一緒に英語でコミュニケーションを取りながら楽しいランチ会を開催しています。

※新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、令和3年度の開催は見送り。